

令和7年度第2回箱根町総合計画審議会及び  
まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

1. 日 時 令和8年1月30日（金）午後2時～4時
2. 場 所 本庁舎4階 第1～2会議室
3. 出席者【委 員】  
水野委員、高畠委員、岡野委員、相良委員、出口委員、久保内委員、田中委員、仁村委員、伊藤委員  
【箱根町】  
企画観光部長、企画課長、企画課副課長兼企画係長、企画係主査、総合計画策定委託業者(株)さとゆめ
4. 内 容
  - 1 開会
  - 2 議 題
    - (1) 次期総合計画基本構想の考え方について
    - (2) その他

企画課長

それでは、令和7年度第2回目の「箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議」を始めさせていただきます。

議事に入るまでの進行を務めます、企画課長の山内です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。資料は、当日配付となり誠に申し訳ございませんでした。机上に「会議次第」「委員名簿」資料1として「次期総合計画基本構想の考え方について」、資料2として「箱根町総合計画策定のためのアンケート調査報告書（単純集計）」、資料3として「箱根町総合計画策定のためのアンケート調査報告書」、資料4として「団体ヒアリング結果概要」を配付しております。不足等ございませんでしょうか。

次に、この会議におきましては、前回に引き続き、皆さんの前にある音声認識システムを使用します。

お手数ですが発言の際は、右下のグレーのボタンを押すと、マイクの先が赤く光りますので、その後に発言をお願い

いたします。発言が終わりましたら、再度ボタンを押してくださいませようお願いします。

それでは、議題に移りたいと思いますが、審議会の会長であります、田中委員からご挨拶をいただき、議事の進行につきましても会長にお願いしたいと思っております。

会長

はい。田中でございます。前回に引き続きよろしくお願ひいたします。前回は、新しい総合計画をこれから作るということで、基本的な体制や方法についての説明がありました。今回からいよいよ、具体的な中身の検討に入っていくということになります。おそらく総合計画の策定に関わるのは初めての方がほとんどではないかと思っておりますけれども、ご承知のとおり、これから作る計画というのは、基本構想 10 年ということで箱根町の 10 年後までを見通した計画ということになります。後ほど説明があると思っておりますが、今後、例えば人口であるとか、産業の状況であるとか、どうなっていくのかということなんです。これは変えられない部分もありますが、変えられる部分もあるわけです。例えば 50 年後 60 年後にこうありたい、あるいはこういうふうにしていきたいということがあったときに、足元の 10 年間に何を目指し、何をするかということとはとても重要だと思っております。その意味合いで、10 年というのは、長いと言う人も短いと言う人もいると思っておりますけれども、10 年先以上の方向性を決定できるような重要性を持ったものでもあるということです。総合計画の内容自体は、主に役場が中心となり、案を作るわけですが、町民のための計画ですので、そこはやはり皆さんが、どういうことを考え、何を求めているのかということをも十分に反映したものにしていく必要があると思っております。そのためにこの審議会があると思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っております。少人数の会議ですので、ざっくばらんに、いろいろご発言いただければと思っております。あと、先ほど紹介があった本日の資料ですが、通常、こういう会議の資料は、1 週間ぐらい前までにお手元に届けるのが原則ですが、事務局が怠っていたわけではなく、私がいろいろ注文を出したために当日配付になりましたので、私から先にお詫び申し上げておきたいと思っております。

それでは早速、議題 1 に入ります。「次期総合計画基本構

想の考え方について」です。前回、事務局から次期計画の策定方針が示されております。その中で総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画という、3つの計画によって構成されると説明がありました。本日、検討していただくものは、計画の骨子と言える基本構想、これを今後どのように考え、作っていくのかといった基本的な考え方についての説明資料です。それでは資料の内容について、事務局から説明をお願いします。

企画課副課長

それでは「次期総合計画基本構想の考え方について」ご説明いたします。資料1の2ページをお願いします。現在の第6次総合計画の取組と次期計画への課題等についてです。

現行計画であります第6次総合計画は、将来像を「やすらぎとおもてなしのあふれる町一箱根」とし、6つの基本目標を掲げ将来像の実現に向けて取り組んでまいりました。基本目標については色を変えて下線を引いていますが、1から4が暮らし分野、5が観光分野、6が行財政分野となっています。下の表は、暮らし、観光、行財政、それぞれの分野で、左から取組内容と成果、真ん中が第6次総合計画で取り組んだものの積み残した課題、右が新たに発生した課題を表記しています。取組内容については、だいたいが簡潔に記載していますので、分野ごとに様々な取組みをしていることだけご理解いただければと思います。暮らし分野については、記載のとおり待機児童ゼロの継続や給食費無償化など、切れ目のない子育て支援や、健康づくり、福祉などで安全安心に暮らせる基盤づくりを進めました。しかしながら、地域の担い手不足による地域コミュニティの縮小や、生活利便性の向上に至るまでの課題は残されたほか、新たに外国人住民との共生といった課題が見えてきているものです。観光分野につきましては箱根DMOと連携した観光振興により、観光客数等はコロナ禍前まで回復するなど、一定の成果が見えていますが、観光業に係る人材不足はより深刻になっているほか、増えているインバウンドへの対応、そして新たに観光客と住民との共生といった課題にも対応する必要が出てきています。行財政分野については、DXによる住民サービスの改善や、ふるさと納税強化による財源確保などを行ってまいりましたが、町の財政状況は依然厳しく、財源の不足が続いているほか、今

後は物価高騰、人件費上昇など急激な環境変化の中、限られた予算での施策の取捨選択、事業再編などが求められています。3ページをお願いします。ここからは、2ページの課題を踏まえての町の現状についての説明になります。まずは人口の推移です。皆さんご存じのとおり、町の人口はピーク時から約半減しており、65歳の老人人口の割合である高齢化率は37.6%と全国平均を上回っています。前回の計画での人口ビジョンでは、5年ごとの目標人口を掲げた中で、平成27年度は実績人口がマイナス717人と大きく開いていましたが、令和7年度は、マイナス20人となり、マイナス幅がかなり小さくなりました。これは、外国人住民の増加の影響によるものと見られます。4ページをお願いします。外国人住民につきましては、ここ10年で人口割合が1.5%から8.9%まで増加しており、令和7年は既に1,000人を超え、10%を超えています。次期計画では、外国人住民との共生を基盤としたまちづくりが必要となっています。5ページ、6ページは、町の産業の構造が分かる資料としております。5ページは町の産業別就業者数になります。産業別就業者数は、男女ともに、宿泊業、飲食サービス業が多く、就業者の4割以上が宿泊業や飲食サービス等の観光関連事業に従事して、本町の観光産業を下支えしていることが分かります。6ページでは、産業別生産額構成比になりますが、箱根町の総生産額のうち、やはり最も大きい産業は宿泊・飲食サービス業となっているものです。7ページをお願いします。観光の現状になりますが、過去10年間の観光客数は、平成29年、30年と2,000万人を超えた後、台風19号や、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一旦は減少しましたが、コロナ以降は徐々に回復を見せ、令和6年に再び2,000万人に達しています。また、宿泊施設内における観光消費額は900億円を上回るほか、令和6年の域内の消費額は、宿泊客1,830億円、日帰り客1,495億円となり、3,300億円と推計されています。8ページをお願いします。次期計画期間の人口推計です。次期計画は、令和9年度から18年度までとなりますが、このままのペースで人口減少が進みますと、令和11年に1万人、令和17年に9,000人を下回り、18年までに22.6%減少し、8,743人となる推計結果となっています。また、高齢者の割合も徐々に増え、40.2%まで上昇すると推計されています。

ここには記載がありませんけれども、先ほど説明しました、外国人住民の増加も加味した数字ですので、このまま減少が進みますと、同時に外国人の割合もかなり高くなると推計されます。

9ページをお願いします。箱根町の財政構造についてですが、まず、歳入歳出決算額の推移です。黄色の折れ線が歳入、棒グラフが歳出です。色分けが歳出の内訳となりますが、青の部分が人件費や借入れ返済の公債費などの義務的経費、真ん中のベージュ色部分が建設費などの投資的経費、緑色が物件費などのその他の経費になります。固定資産税超過課税を実施後は歳入が増えたほか、令和2年度はコロナ対策の給付金等があったため、歳入歳出が増えています。また、5年度は、投資的経費が増えたことにより、基金の取崩しを行ったため、歳入が増えたものです。今後は、人件費の上昇や、先ほど申しました借入れを返済するための公債費が増える予定で、青の部分の義務的経費が増え、投資的経費やその他の経費を圧迫する恐れが出てきています。

10ページをお願いします。財政力指数の推移と、財政運営の実情です。財政力指数は、自治体が自前の収入などでどの程度、行政サービスを賄える力があるかを示す代表的な指標です。一般的に1を境として1以上あると、標準的に必要な財政需要を自前の収入で概ね賄える、1未満ですと自前の収入だけでは不足し、国からの地方交付税等で補う必要があるとされており、箱根町は左下の表の青の数値になりますが、1以上の高い水準となり、一般的には、国からの普通交付税の要らない、裕福な自治体とみなされております。しかしながら、普通交付税の算定に当たっては、観光客を受け入れるためのごみ処理や消防に係る支出は、国が定めるサービスの対象外となるため算定に入れられず、本町は歳入が不足しているのにも関わらず、普通交付税が受けられておりません。右の表は、本町の観光まちづくりに係る経費をまとめたものですが、歳出額は大変大きく、実際には非常に厳しい財政状況に置かれております。

11ページをお願いします。今後の財政の見通しになります。ベージュ色が歳入、青が歳出となります。歳入では、ふるさと納税による寄附金を見込んでも、今後の人件費や物価の上昇、公共施設の更新等により、令和10年から14年の5

年間で歳出が歳入を上回り、年平均 10 億円の財源不足が見込まれております。それほどまでに、今後の本町の財政は厳しいものになっていくと、ご理解いただければと思います。

12 ページをお願いします。2 ページ目でも課題としてまとめておりますが、現在、そしてこれからの課題をまとめたものになります。暮らし分野では、生活の利便性の向上といった、町民の暮らしの満足度の向上、外国人住民との共生、そして次世代の担い手の確保・定着、観光分野では、人材確保だけでなく、量から質の観光への転換など、新たな観光の需要に対する対応、住民生活との共生、行財政分野では、先ほどから町の財政状況を説明してきましたが、課題解決のための財源の安定的な確保や、歳入に見合った適切な予算配分などが一層求められています。13 ページをお願いします。これまで説明しました現状や課題を踏まえまして、次期総合計画で目指すべきイメージ図になります。暮らし、観光、行財政といった分野は、それぞれの分野と捉えがちですが、どれかひとつでも欠けてしまうと町の発展はなく、この3つの分野をお互い補うものとして好循環となるよう、しっかりとこのサイクルを回していくことが、今後、一層重要となると考えています。改めまして現状本町は、2,000 万人の観光客が訪れる国際観光地であり、観光の分野では一定の発展が図られていますが、町民生活については、後ほど説明しますアンケート結果からも分かるように満足度は上がっておらず、転出に歯止めがかかっておりません。また、観光の発展と相まって、オーバーツーリズムに近い状況が顕著になっており、バスに乗れない、また、管理人のいない民泊が増えるなど、地域の環境の悪化など、観光の発展が住みづらさにも繋がってきています。また、観光客が増えているものの、町の財政状況は好転せず、逆に、ごみ処理費用などの観光まちづくりに係る費用が増えることで、財政状況は悪化しており、観光の発展が町の財政、そして町民の生活の質の向上につながっていません。また、今後の観光の発展には観光に携わる人材の確保は必須となりますが、同時に、暮らしの満足度が高い、住みやすい町でなければ住み働くことはできません。そういった、観光、暮らし、行財政、この3つの分野は、互いに支え合うべきものですが、現状はこのサイクルがうまく回っていないと言えます。このサイクルをうまく回すために、今後

宿泊税の導入が予定されておりますが、観光の発展がしっかりと町財政に潤いを与え、その財源を、町民生活、そして観光にしっかりと投資し、町民も、観光の発展が自分たちに還元されていると実感でき、観光への理解協力を深められる。このような好循環となるよう、これを10年間かけて安定的に行える基盤づくりを目指していく、そのようなサイクルの図になっております。14ページをお願いします。ご説明しました、サイクルの考えをしっかりと計画の基本として落とし込んでいきたいと考えていますが、これまでの総合計画の検証結果や、町民アンケート等によっても分かるように、これまで総合計画に基づく施策に取り組んできたものの、長年の課題は飛躍的には解決できておりません。その理由の一つは、第6次総合計画を見ていただくと分かるように、これまでの総合計画は、福祉や教育、観光など分野ごとに幅広く並列に並べる、「何でもやります」といった、網羅型の考え方が中心であったため、幅広い課題を扱える一方で、優先順位などが見えにくく、町として集中して力を注ぐべき重要課題に人や財源といった資源の分散化を招いてしまった結果と言えます。加えて、ここからは、人口減、人口構造の変化や、物価や人件費の上昇、公共施設の更新問題など、状況も大きく変化し、対応すべきことも増えていくと思われませんが、先ほどから説明しているとおり、町の財政や人材確保はより厳しくなっていくと思います。このような中でこれからの計画は、これまでの「あれもこれも」ではなく、何を優先して行っていくか、何をやめるか選択と集中の考え方がこれまで以上に求められます。よって次期の総合計画は、施策を広く並べる、これまでの分野別網羅型の構成から大きく転換し、限られた資源を重点課題に集中することで、3つの柱を好循環させて、成果を最大化する戦略性を持って策定したいと考えております。そのためには、総合計画の基本的方針とも言える、基本構想の段階から、重点テーマや優先順位、成果指標等を明確にし、その次の基本計画、実施計画、予算に直結させる構成とするなど、町民の皆さんが基本構想を見て、10年間の町の考えに期待が持てるようにしていきたいと考えております。以上が、次期総合計画基本構想の考え方になります。

会長

はい。今ご説明いただいたこの資料1が本日のメインの資

料となります。前半は、箱根町の実態に関するデータや分析結果で、13～14 ページが最も重要な、今後の箱根町の在り方あるいは基本構想はどういう方針でどんなものにするかといった点からも、少し時間をかけてご意見をいただきたいと思います。資料の1 ページから12 ページは箱根町の現状と、現状を踏まえての今後の見通し、そして課題について整理されていますが、駆け足で説明していただいたので、十分消化できない部分もあると思います。何か確認されたいこと、あるいは関連して何かご意見やご質問等ありましたらお願いします。

一点、私のほうから口火で申しあげますと、人口推計の資料が8 ページにありますね。次期総合計画の計画期間終了年が令和18年、2036年で、この時に箱根町の人口は9,000人を切って8,743人という推計となっていますが、このうち外国人の人口は何人という推計になっていますでしょうか。

(株)さとゆめ

外国人人口の推計は令和12年まで行っており、令和12年には3,292人と、3,000人を超える推計となっております。ただ、外国人については、出生率等のデータがないことから、直近の増加率を用いて推計しています。今後どの程度外国人が増加するか、国の政策によっても変わってくると思いますので、この数字については大きく変化する可能性があります。

会長

それでは令和13年以降は、横ばいでこの人口推計に入っているということでしょうか。

(株)さとゆめ

資料の人口推計については、外国人が含まれていますが、日本人と外国人の人口の振り分けは行っていないものになります。

会長

外国人人口を見込まないと、この推計値はもっと少なくなる可能性があるということです。そういった目で見ていただきたいです。

委員

令和12年は外国人が3,292人で、令和12年までの外国人の増加率を踏まえて、令和18年の人口を見込んでいるとな

ると、令和 18 年の 8,743 人が劇的に減る可能性があると思います。国では外国人を無尽蔵に受け入れているのではなく、育成就労等で上限を決めていますから、受入上限に達したら外国人は現行制度上もう入ってこないことになるので、令和 12 年までの増加率で、外国人が令和 18 年まで増えていくと想定してこの人口を見込むのは、かなりミスリードではないかと思いました。令和 18 年の 8,743 人という数字が、外国人増加を見込んだものである場合、先ほど申しあげたとおり育成就労等の入国管理で、上限を超えては入ってこないもので、もっと減る可能性があり、果たしてこの推計が正しいかどうかは分からないと思います。極端に言えば、この令和 18 年 5,000 人ぐらい外国人が含まれているかもしれないとなると、この推計をベースに総合計画基本構想を考えて良いのかと感じました。

株さとゆめ

社人研の推計の中では、外国人増加率を特出しして推計しているわけではなく、資料の人口推計に、これまでの外国人の増加率が入っているわけではありません。この人口推計は、単純に移動率と出生率・死亡率から算出されたものです。

会長

日本人人口ということであれば、その考え方で良いのですが、箱根町のように人口規模が小さい割には、直近で外国人人口の増加率が高いという場合には、やはり無視できないと思います。それをどう見るかによって、だいぶ人口の在り方が変わると思います。私のイメージとしては、外国人が増えているのは、若い働き手が、日本人がいなくなった部分を補うような形で入ってきているのかなと思っています。箱根町の人口減少分を補うような形で外国人が入ってきているというよりは、お店などで足りなくなった部分で入ってきているということで、一定の枠の中にははまるとしています。要するに、事業といいますか、主に小売やサービス系の需要の中で、足りない人手に対し、外国人が来ているということなので、直近の伸びのまま継続するわけではないと思っています。その辺り、今委員からご指摘いただいたように、外国人の今後の動向をどの程度、見るのか見ないのかということも含めて、最も問われるところだと思うので、検討していただきたいと思います。

株式会社とゆめ 分かりました。一点補足しますと、この資料の人口推計は、令和2年度の国勢調査のデータを基に推計していますので、外国人急増分は反映されていないものになります。来年度に公表されるはずである最新の国勢調査結果により、更新されるものと思います。

企画観光部長 人口の部分で補足ですが、箱根町の人口は今1万1,000人弱です。10年スパンで見ると減少傾向ですが、直近5年ぐらいで見るとほぼ横ばいで、自然減がありますので、人口1万1,000人弱を維持できているのは、外国人が一定数、必ず入ってきているという現状があります。

会長 はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員 今は観光業、サービス業メインで、人が足りないから外国人の誘致が進められているという状態になっていると思いますが、これから10年で業種の移行というか、一次産業の発展を目指したほうが良いのではないかと私は思っています。これからのまちづくりでメインの業種を切り替えていくという構想はあるのでしょうか。

企画観光部長 冒頭の説明の中にもあったとおり、箱根町は観光立町と言われており、その裏づけとして、いわゆるサービス業、第3次産業従事者が、圧倒的に多いという構造の町です。後ほど報告しますが、アンケート結果の中では、観光地であることは誇りに思うとか、魅力ある観光地であり続けてほしいというご意見がある一方で、観光業しかなく、観光業だけに頼っていると、直近の例で言えばパンデミックが発生した時には、立ち行かなくなるという懸念があるので、観光以外の産業も誘致や創出をしていくべきだというご意見もありました。そういったご意見も踏まえながら、長年の課題として、次期の計画でどのように取り扱っていくかという考えは持っています。現段階で方向性まで持っているものではありません。

会長 観光が中心であるということは間違いないとしても、少し

バラエティを持った産業構成という視点も、やはりいろいろな意味合いで、リスク管理やレジリエンスにつながりますし、必要かと思えます。

関連して、私からもよろしいでしょうか。7ページの観光関係のデータ、特に宿泊者数も含めた観光客数ですが、このグラフでは平成27年以降ですが、それ以前のデータを含めて過去最高は2,000万人くらいかなと思います。2,500万や3,000万ということは過去にありませんよね。この年間2,000万人というのは、箱根のキャパを考えたときにマックスと考えていいのか、あるいはまだ余地があるのか。要するに今後、観光を中心に発展していくという場合に、もっと観光客を受け入れるような方向にいくのか、あるいはもうこれはキャパ的に限界なので、観光客数自体は増やさないけれども、もう少し中身を変えていく、という考えに繋がっていくと思います。これは委員の皆さんにも、ぜひ伺いたいのですが、今の肌感覚として、年間2,000万人、宿泊客がほしい400万人前後ですが、この人数が限度なのか、まだいけるということなのか、あるいは、もっと受け入れるべきなのかどうか、その辺りはいかがでしょうか。

企画観光部長

ご参考までに、過去最高の入込観光客数は、バブル期最終年の平成3年（1991年）の2,247万4,000人です。

委員

2,000万人がマックスかどうかというのは、私はマックスだとは思っていません。というのは箱根町で一次産業がどう発展するかというのは、あまりイメージがわからないからです。箱根は国際的な観光都市ということ謳い、それにある程度特化したほうが良いと思います。湯本の渋滞等、いろいろな課題への対応をどうしていくのかというのは、これからいくらでも考えられると思いますので、やはり観光をまず一大メインにするべきだと思います。それによっていろいろな産業が成り立つし、人口も増加すると思っています。

会長

ありがとうございます。むしろ、もう少し増やしていく方向を目指せば良いというご意見ですね。その他いかがでしょうか、別の観点でも構いません。

- 委員 7ページに関して言いますと、例えば平成29年と令和6年とを比べると平成29年の方が観光客数は多いですが、令和6年の方が観光消費額が多いです。人数を求めるのではなく、質を求めるといいますか、箱根に来てハンバーガーを食べて帰るのと、フレンチを食べて帰るのと、どちらが良いのかというとフレンチを食べてもらった方が良いに決まっています。一人当たりの消費額が少なくても人数が増えれば消費額は増えますが、せっかくDMOがあるので、一人当たりの観光消費額を増やすということを考えてもいいのかなと思います。単純に人数だけではない面もあると思います。
- 会長 箱根に落としてくれるお金、一人当たりの単価を増やしていくということですね。
- 委員 先日、寄木細工の発祥の地の畑宿に伺い、話を聞いたところ、バスの団体旅行客は、寄木細工を買ってくれる方が多いから大事にしたいのに、コロナ後からバスの団体旅行が激減しているとのことでした。これについては、町が積極的に取り組み、観光客に来てもらうようにしてもらいたいです。また、職人も4軒だけとなり、人手不足が懸念されているとのこと、町で対応を検討してほしいとの意見がありましたので、お伝えします。
- 会長 はい、ありがとうございます。箱根が持っている観光資源を十分に活用できていないということでもあろうかと思えます。
- 委員 観光客の件について、増えることは良いと思いますが、それに伴い、現状でもごみの問題や渋滞の問題があり、そちらを解決してからの方が良いのではないかと思います。増えることで、問題が山積すると思いますので、その辺を考慮してほしいと思います。
- 会長 当然、観光客が増えれば問題も増えていくということですね。いずれにしても、やみくもに増やしていくという方向にはならないと思います。ただ、次期総合計画は、どのくらいを目指していくのか、単純に人数だけではなくて、さきほど

委員がおっしゃった、どういう内容の観光をしていただくのか、これについては箱根町が何を提供するかということと表裏一体になってくると思います。そのことを認識しつつご検討いただければと思います。

一点、私からコメントしたいのですが、11 ページの中長期財政の見通しについてです。これは現状ではなくこの先、財政の歳入歳出がどうなっていくかという数字です。実はこの財政見通しというのはとても難しく、どの程度正確に算出できるのかという問題はありますが、一定の前提条件のもとで計算しているものになります。グラフの右上の枠の中に説明がありますが、この見通しはふるさと納税寄附金を 26.7 億円で毎年計上しています。ですから、このページ色の歳入には、毎年 26.7 億円のふるさと納税の歳入が入っているということを踏まえたうえで、見ていただきたいです。つまり、ふるさと納税が無かったら 26.7 億円分が減るということで、即財政難という状況です。ふるさと納税というものは、あぶく銭であると、私は考えています。要するに、増えることもありますが、何かあったら入ってこなくなる歳入ということなのです。

箱根町の現状と今後は、ふるさと納税が一定額ないと厳しい状況であるということをご認識いただきたいと思います。

委員

会長のお話で思い出しましたが、令和 10 年度から予定されている宿泊税については、この中に盛り込まれているのでしょうか。

企画観光部長

この中には入っていません。

委員

宿泊税が導入されれば、状況は改善するのでしょうか。

企画観光部長

ある程度改善はされると考えています。

会長

確かにそのとおりです。宿泊税が入ってくれば、少し改善するかと思います。他にいかがでしょうか。特になければ、次に進ませていただき、改めてこの内容でご質問を受けたいと思います。

企画課副課長

それではアンケート結果について簡単に報告いたします。  
資料2、1ページ目をお願いします。今回のアンケートについては、次期総合計画・総合戦略の策定に当たり町民ニーズ等を確認するため、昨年10月に実施しました。調査対象は、箱根町に在住の18歳以上の男女の中から無作為に抽出した1,500名を対象とし、調査方法は郵送にてアンケート用紙を配布、回答は郵送による返信か、またはウェブでの回答としました。アンケートの回答数は386票、回収率は25.7%となりました。前回策定時のアンケートでは30.7%でしたので5ポイント低くなっています。その要因としましては、前回のアンケートでは、対象を年代ごとにほぼ同数、例えば20代を200名、30代を200名、40代を200名といったようにしていましたが、やはり20代30代の回答数が少なかったことから、今回はできるだけ若い層の意見を反映すべく、前回より送付対象の10代～30代の比率を多くしたため、結果としては全体の回答数は少なくなったものです。しかしながら今回は、10代～30代の回答数が前回より多くなっています。回答いただいた方の性別、年齢につきましては2ページ目、居住地域、職業居住地域については3ページ目、居住歴、世帯については4ページ目にまとめていますので、後ほどご覧ください。5ページ目をお願いします。幸福度についてです。幸福度については、前回のアンケートでも聞いていますが、これまでは「あなたはどの程度幸せですか」という聞き方をしていました。ただ、その人が幸福かどうかは、様々な事情、様々な立場や要因で判断されるものと思います。そうなる、町としてどう改善していくかが難しいということで、今回は、「箱根で暮らすことについてどの程度幸せですか」と聞き方を変えています。回答の平均値は、中央値である5よりやや高い5.97となりました。問2の愛着については、「ある程度愛着を感じている」が最も多く、「とても愛着を感じている」と合わせると81.4%の人が、箱根町に愛着を持っている結果となりました。6ページをお願いします。定住意向についてですが、「住みやすい町ですか」という質問に対しては全体で57.8%の人が住みにくいと感じており、住みやすいと感じている人を上回っています。下段の住み続けたいかについては、「できれば住み続けたい」が最も多く、移りたいという回答より住み続けたいという回答が上回っています。

前の質問で住みにくいと考えている中でも、できれば住み続けたいと考える方が多いという結果となっています。7ページをお願いします。住み続けたい理由につきましては、表のとおり、自然環境、また、今の住居に住み続けたい、愛着があるから等が上位となっています。8ページをお願いします。移りたいと回答した方に対しての質問になりますが、移りたい理由としては、やはり買物、医療環境、また、車がないと生活できないといった、移動手段によるものが多くなっており、前回のアンケート結果とほぼ同じ結果となっています。今回、移りたい理由が解消されれば住み続けたいかという質問を追加しましたが、解消すれば住み続けたいとの回答が多く、課題解決が転出を防ぐことに繋がると言える結果となりました。10ページからは、分野別のまちづくりについての質問ですが、現行計画に掲げるまちづくりの各施策の現状満足度については、10ページの一覧で見ますと交通、次に保健医療の項目で不満、やや不満といった不満度が高くなっております。11ページから16ページまではその内訳ですので、後ほどご覧ください。17ページをお願いします。町（町政）の課題についての質問です。この課題については、「買物や医療など生活に必要な施設の不足」が最も多く、次いで「湯本付近をはじめとした交通渋滞」と、従来からの町の課題が挙げられていますが、今回は、「外国人観光客の増加等による地域住民への影響」といった回答も多く見られています。18ページをお願いします。第6次総合計画の評価とも言える、町の課題に対する変化の感じ方ですが、交通渋滞、買物環境、医療体制、子育て環境、地域コミュニティ、といった項目で質問をしましたが、全ての項目で「変わらない」という回答が多く、交通渋滞などは悪くなったという項目も見られました。現状では、やはり良くなったと変化を感じ取れる回答が少なかったことから、現在の町民の課題感をいかに改善していくか、どう取り組むかが次期総合計画の課題と言えると思います。次に、21ページをお願いします。観光について今後力を入れていくべき施策につきましては、「人材確保を含めた受け入れ態勢の維持」が最も高く、次いで「新たな観光の魅力の発掘」となっております。問14については、観光についてのアイデアを自由意見でまとめたもので、21ページから23ページまで様々なご意見をいただいております。

後ほどご覧ください。23 ページの間 15、24 ページの間 16 につきましては、町内で働き続けたいかといった質問で、約半数の方が働き続けたいと回答しております。25 ページをお願いします。課題のひとつでもあります、若者の定住への対応については、労働環境の改善、移動手段の確保が高くなっています。旅館ホテルといった勤務形態や、免許や車を持っている若者が少なく、移動手段が限られるといった課題を確認できる結果となっています。次に 28 ページ、今後の人口減少の中での課題や不安について、自由意見でいただいたものです。やはり、生活の利便性がさらに悪くなる懸念や、観光業での人材不足など、様々な観点からご意見をいただきました。最後に 30 ページ以降は 10 年後、20 年後の箱根町のあり方についての回答になりますので、後ほどご覧ください。以上が資料 2 の説明になります。資料 3 の横版のアンケート結果報告については、ただいま説明しました項目を年代や性別ごとに集計したものになりますので、また後ほどご覧いただければと思いますが、その中で特に、とりわけ 18 歳から 39 歳までの若い女性の定住意向の低さが浮き彫りとなっています。次に資料 4、「団体ヒアリング結果概要」についてです。こちらを策定に向けて、町の各分野の事業者団体に対してヒアリングを行ったものです。ヒアリング先や内容は、2 ページのとおりです。3 ページは分野ごとの事業者や団体の意見、4 ページは暮らし、観光、行財政の分野別に意見を簡潔にまとめております。やはりどの事業者団体からも、人手不足による活動等の課題が挙げられています。例えばバス会社にとっては、人手不足の中で交通渋滞による影響が深刻であることや、多くの団体から観光と生活の両立を望む声が聞かれました。こちら後ほどお目通しください。説明は以上です。

会長

はい、基本的なメインの資料を補足する情報ということで、アンケート調査結果と団体ヒアリング結果の説明をしていただきました。

委員

アンケート結果の 8 ページ、移りたい理由は何ですかという質問への回答で、日常の買物が不便とか、車がないと生活できないからというものがあり、13 ページに、「道路・交通

道路や公共交通が整い、安全で移動しやすい」という分野別まちづくりに対し、不満とやや不満という回答割合が78.2%と、約8割の方が不満を感じています。前回の会議でお話した、各地域のコミュニティバスですが、これはとても重要だと考えています。昨晚、宮城野地域では、地域包括支援センター主催で、地域ケア会議を開催しました。その中で、高齢になり免許を返納し、車で移動できなくて困っている高齢者をどうしようかという話になりました。それで箱根老人ホームの車両を使い、運転手はボランティアでお願いして運営しようかという話になりましたが、老人ホームの車を使う場合、保険代とかガソリン代はどこから出すのかという話になり、それは当然町だが、町だと実現まで時間がかかるという話から、社会福祉協議会が使用しているコミュニティバス、今は仙石原でニコニコ号として運行していますが、その車両が木曜日以外は空いているということで、それを使えば、社会福祉協議会の中では経費を計上してあるので、宮城野地域で使っても良いという話になりました。宮城野地域では強羅が3年前からコミュニティバスを運行する予定で動いていたものの、途中で頓挫してしまったので、強羅をモデル地域として先に実施することになり、その後二ノ平・宮城野で実施することになっていますが、将来的には社会福祉協議会ではなく、やはり町がコミュニティバスを全町各地域で運行した方が良いと思いますので、そういったことについて、ぜひ入れてほしいと思います。

企画観光部長

今、委員さんからコミュニティバスについて、地域の足の確保ということで町でも大きな課題、以前からの課題として認識しています。前回の会議のときにもお伝えしましたが、町民の満足度を上げていくためのひとつの大きな取り組みとして、ニーズがあるということは十分認識していますし、しっかり計画にも入れるようにしていかななくてはならないと考えているところです。

会長

アンケート調査では、毎回、出てくる課題は変わっていないですね。何らかの対応をすれば、町民の意識が変わることは明らかなので、どこまでできるかという問題はあるにしても、地元の方が率先して行動しているので、そろそろ本腰を

入れて、それをサポートするような形で、前向きに検討いただきたいと思います。その他いかがでしょうか。

委員

資料3の5ページで、今副課長からコメントがありました。20年後30年後を見据えて、今後10年間何をしていくかということ考えた時、今すぐできるというものはないと思いますが、何か大きな課題がこの5ページにあるわけですね。女性の18歳から39歳で、「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」という人が圧倒的に少ない。最近よく言われることですが、昔は男性が地方から都会に出て、女性が地方に残っていましたが、今は全く逆で、男性が地方に残り、女性が都会に出てしまう。地方は男性が多くなり、女性が少なくなったので、人口が減っているというのが、今の地方の人口減の原因のひとつではないかと言われていました。まさに箱根はその典型だと思います。18歳から39歳女性が出ていきたいというのは、皆さんも消滅可能性都市という言葉をお聞きになったことがあると思いますが、具体的な年齢は失念しましたが、だいたい20歳から40歳くらいまでの女性が今後数年間で減少することで子どもも人もいなくなり、将来的に消滅してしまうかもしれないという考えです。資料を見ますと、箱根は消滅可能性が高いなと感じました。今すぐできる対応はもちろんやっていただきたいですが、なぜ18歳から39歳の、特に女性がこう思っているのか、その点は分析が必要ではないかと感じました。委員お二人は、逆に箱根に移住して来られた方なので、なぜ箱根を選ばれたのか、改めてお聞きしたいです。

会長

ありがとうございます。委員お二人は、移住した理由や、移住後に感じていること、周囲の方の反応など、ぜひお聞かせください。

委員

まさに私は18歳から39歳の年代に当てはまります。町外から転入してきて、今後も住み続けたいという意向を持っています。ただ、出会いが少ないというのは感じているところです。でもそれは、箱根町は観光業が主要な産業で、そこに携わる方々が若者も含め、多くがシフト制だったり、夜勤があったり、そういう勤務形態が、なかなか出会いに繋がり

	<p>にくいということ、あとは車通勤が多いことや、各地域が山間で点在しているので、なかなか他の地域との交流がしにくいということが理由としてあると思います。私自身は夫婦の世帯になりましたが、婚活をするのは本当に大変でした。町の企画課が中心となり、若者の交流イベントなどを企画してくださったので、そういったイベントにも参加しましたが、そもそも、そういった場に人を集めるということ自体が箱根町の傾向として、なかなか難しいという実態はあると思います。</p>
委員	<p>資料3の7ページの移りたい理由で、遊ぶ場所、楽しめる場所が少ないとか、交通渋滞が多いとか、車がないと生活できないというのは、女性にとって不利な部分が理由として目立っていると思いました。私の場合は、自然が大好きなので、今の環境はかなり気に入っています。ぜひ森林を保護することに注力してほしいと思います。しかし、私の世代の女性ですと、虫や動物が怖いという意見があるとは思いますが。遊ぶ場所となると、小田原も昔と比べると遊ぶ場所がかなり減ってしまい、観光客向けのお店が多くなっているので、小田原よりもっと県央の方まで行かないと、遊ぶ場所がないのではないかと思います。私の場合は今の環境が楽しいので良いですが、もっとリアルな女性の声を取り入れ、小回りのきいた施策を考えてほしいと思います。</p>
委員	<p>今のご意見に私の個人的な観点から補足をさせていただくと、やはり遊ぶ場所がない。特に夜、若い人たちが集まれる場所がないということは、箱根町の愛着形成という部分に大きく関わってきているのかなと思っています。私が働いている美術館で、2023年に夜間開館のイベントをしました。夜に美術館を開けて、その中でいろいろな催し物や、飲食の提供をし、箱根在住在勤の方々をご招待しました。とても多くの方に来場いただき、日頃そういう場がないということ、そういうニーズがあるということを実感しましたので、この場で共有させていただきます。</p>
会長	<p>若い世代の女性のこのアンケート結果は非常にショッキングで、特徴的です。今お二人がおっしゃったことは、ヒ</p>

ントになると思います。この18歳から39歳の女性、働いている方とそうではない方とを分けると、傾向が少し違うのではないかと思います。18歳から39歳と言っても、女性の中には様々なステージの人がいるかと思いますが、ステージごとに分けてみるのも良いとも思います。ただ、そうするとサンプルが少なくなりますので、明確な傾向が出てくるかどうか分かりませんが、この世代の女性がポイントだというのは確かですので、まず分析をしていただきたいと思います。その他いかがでしょうか。

それでは、もう一度、資料1をお開きいただきたいと思います。特に12～14ページが、これから策定する基本構想の内容にかなり直接的に関わってくる部分です。12ページは、課題ということですが、対応策も書かれています。アンケートから読み取れたようなことも、こちらに含まれていると思います。13ページが今後の箱根町のあり方を概念的に表したものであるということで、観光、暮らし、行財政がうまく連関していくような姿を想定している。14ページでは、基本構想について、少し絞り込み重点的に取り組むべきものを、はっきり分かるように作っていきたいという趣旨のことが書かれているのかなと思います。こちらが、恐らく次回出てくる基本構想の素案に反映されてくると思いますので、これを中心に、またそれ以外にも、本日説明があった他の資料についてのご質問ご意見もいただければと思います。

委員

13ページのこのサイクルを踏まえて、私が収集した情報の共有をさせていただきたいと思います。

先日、旧街道を甘酒茶屋の辺りまで行き、景観を見てきましたが、杉ばかりが生えているのが分かりました。少し寄木細工の勉強もして、寄木細工のパンフレットには、寄木細工は箱根山系の豊富な樹種から作られていると記載がありましたが、国立公園であるため、実際には伐採ができないそうです。海外や国内各所からの材木を使用しているとのことでした。これは防災の面になりますが、杉というのは寿命が平均500年くらいで、今の杉が何歳なのかは分かりませんが、江戸時代に東海道が整備された頃に植えられたものであるなら、寿命が迫っていると思います。そうすると、最近は豪雨が多いですが、土砂崩れの可能性が出てきます。景観とし

でも、日光だと紅葉時期は真っ赤できれいですが、箱根は常緑樹が多いから秋になっても同じ景色だと思えますので、広葉樹にすれば、広葉樹は根が深くて土をしっかり掴むので、土砂崩れ等の災害にも強いですし、景観的にも紅葉がきれいで、観光面でも良い。さらに、林業が発達すれば、仕事が増えるので、人も増えて町も潤うということに繋がってくると思います。まず防災面から、樹齢に関しての調査と、付随して、国立公園内という理由で伐採できないのであれば、国との話し合いなどもお願いしたいと思います。あと、トラスト募金について、募金したいと思っても、募金額が見当たらずで、先日畑宿で初めてトラスト募金の募金箱を見つけたので、あるだけの小銭を入れてきました。募金箱が少な過ぎるので、大きな駅などに募金箱を設置していただき、財源の一部にできるくらい集めてほしいと思います。それと、寄木細工自体が、箱根町の大切な文化でありながら、保護されていないのが現状であるらしく、海外で盗作のようなものが安く売られているようなので、町としてしっかり保護していただきたいと思います。自然を大切に、自然の調査等で仕事を作り、人も増えていく、というイメージで、サイクルのひとつとして考えていただきたいと思いました。

会長

森林の話と、箱根トラスト募金、あとは寄木細工の保護の3点のお話がありましたが、事務局いかがでしょうか。

企画観光部長

まず杉並木につきましては、旧街道の杉並木の保全・活用ということで、10年計画で毎年度エリアを区切ってしっかり調査を行い、どのような手立てをしていくかという対策は既に始めています。ご懸念いただいている部分については、保全を行いつつ、杉並木を見に行きたいという観光客の方にも応えるために、町としても力を入れていかなくてはならないという考えのもと、既に取り組んでいます。それと、町有林、例えば畑引山等がありますが、委員がおっしゃるように景観も楽しんでいただきたいという思いで、広葉樹への転換を、伐採し植樹を行い、針広混交林を目指す森づくりをしていこうというコンセプトで取り組んでいます。ただ、行政はPRが下手だとよく言われるとおり、良い取組みがなかなか伝わっていないという部分は常々反省しておりまして、本日冒頭

に会長のご挨拶でもありましたように、総合計画は行政のためではなく町民のための計画だという認識をいま一度しっかりと持ったうえで、様々な取組みを考えていきたいと思っています。それから、トラスト募金につきまして、募金箱は町内に 60 数ヶ所設置しております。トラスト基金を活用することで自然保護事業ができていいる部分が大いにありますが、実情として、基金は目減りをしてきている状況です。何とかテコ入れを行い、寄附の拡大を考えて、募金箱以外にもワンクリックで寄附ができるようなことも考えているところです。貴重なご意見として受け止め、しっかり取り組んでいきたいと思ひます。

会長

杉ばかりが植樹されているということですが、国有林はもう、手も足も出せないのでしょうか。杉並木として整備している箇所はそれで良いと思ひますが、杉でなくてはいけないのかどうか、その辺りは分かりますか。

企画観光部長

国有林ですので、伐りたいと言ひって、どうぞというわけにはいかないと思ひますが、危険木については伐採のお願いができると思ひます。箱根町は、安全という観点、景観という観点、両方を持っていないといけないと思ひていますので、そういった観点から要望という形で対応ができると思ひます。ぜひそういった声をお聞かせいただき、しかるべき対応ができれば良いと思ひます。現状は、国有林だから何もできないとは考へておりませんし、そういったニーズがあるのであれば、しっかり取り組んでいかなければならないと思ひますので、ぜひまた情報をください。

委員

グーグルマップで衛星写真の画像を見ることができますが、お寺の所有地ですと、いろいろな樹種が保護されていることが分かります。ヒメハルゼミという珍しいセミも生存できています。先ほどおっしゃったように、杉並木の部分は杉を植えたとしても、箱根は寄木細工ができただけあって、おそらく昔はいろいろな樹種が植わっていたと思ひます。繰り返すになってしまひますが、防災の面でも、今後災害が起きた時に観光業が下火になってしまう可能性も踏まえて考へると、林業についても考へていただきたいです。国による林業

の雇用サポートも始まっているようで、南足柄市の大雄山では求人が出ていましたが、箱根では無いようでしたので、国有林だから手が出せないということではなく、町で変えていけるような話し合いをしていただきたいと思います。

会長

資料1の13ページのサイクルには、暮らし、観光、行財政という3つの主要なものが書かれています。豊かな自然環境が良好な形で維持されているという大前提があると思います。あとは、暮らしていて、安全であるということ。大涌谷ですとか、心配なことはありますが、基本的には、できる範囲で安全に保たれているということがあってのこのサイクルであると思います。ここに書くかどうかは別にして、自然環境が良い形で維持されるというのは当然のこととして検討していただきたいと思います。

委員

13ページのこのサイクルは、とてもよく考えられているということは分かります。14ページ重点課題に集中して3つの柱（暮らし、観光、行財政）の好循環を目指す、その前提として、「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」ということですが、正直、暮らしの分野が入った瞬間に、全てが入ってしまうのではないかと思います。定住促進で人が来たら、当然子育てがあり、学校があり、親の介護もある。先ほど（水野）委員がおっしゃったように、地域のコミュニティバスを走らせて高齢者の送迎、ということも考えなくてはならない。そうすると、結局「あれかこれか」にはならないのではないのでしょうか。あと、観光の部分についてですが、おそらく産業を絞るということだと思いますが、都市部であれば製造業も農業もありますが、箱根町は観光しかないですね。そもそも一択ではないかということです。そうすると、正直「あれかこれか」になっていないと感じました。今ですと、国も地方自治体も業務に追い立てられていて、何とかしなくてはならないということは、国の中で議論されています。理由としては、職員が減っていることがひとつあると思います。こうした課題に対し、国は地方に仕事を減らすように言っていますが、生産性を上げろとも言っています。生産性を上げるというのは、この緑色の部分、行財政運営の中での効率的な運営やデジタルの導入に該当するかと思いますが、も

うひとつ国が言っているのは、担い手を広げるということです。要は公務員だけではやりきれないから、民間と一緒に仕事をやっていきなさい、つまりは官民連携ということですが、その官民連携の視点が全く無いと思いました。

会長

はい。2点ご意見をいただいたかと思いますが、この13ページのサイクルが、実は「あれもこれも」になっているのではないかということと、官民連携の視点、こちらは重要なポイントだと思います。総合計画は、実際問題としては、「あれもこれも」になると思います。

委員

どうしても行政運営として逃げられない分野や切り捨ててはいけない分野はあると考えています。今はどこの自治体も、「あれかこれかに絞ります」と言っていますが、個人的には、「あれもこれも」やらなくてはいけないのが行政だと感じています。私としては、公務員だけでは難しいので、担い手を広げていかななくてはならないという思いがありますので、そういった視点が少し足りないと感じました。

会長

そういうことですよね。やらなくてはいけないことは全てやるということです。14ページに「あれかこれか」と書いてあるのは、見せ方をそうしますということだと理解しています。現行計画は基本的には同じフォーマットで全部書かれているけれども、それをもう少しメリハリをつけた見せ方をするという意味合いであると私は理解をしています。やるべきことはきちんとやるけれども、力を入れてやることは、それを特出しして分かりやすく書くということであると。あとは、箱根は観光しかないなので、そもそも絞っていないだろうというお話ですが、それはその通りですが、この図では、観光のレベルアップを目指すということ言いたいのだと理解しています。事務局、いかがでしょうか。

企画課長

会長がおっしゃる通り、見せ方がすごく大きいと思っています。今まではいろいろな分野を網羅的に、やるべきことをやっているという状況を並べて書いていました。そうした部分は、分野ごとに個別の計画を持っていますので、そこでしっかり示せていければ良いと考えています。この10年間で

	<p>注力すべきことを特に強調するような計画の見せ方にしたいと考えています。</p>
企画観光部長	<p>官民連携の部分というのは、サイクルの中には文言として入っていませんが、入れていかななくてはいけないと感じました。資料1の2ページ上段の現行計画の基本目標6には、「行政の効率設計と官民協働体制の強化」とあります。現行計画にもありますが、今後ますます、これからの時代では重要だという認識は持っていますので、13ページのこの3つのサイクルの持続可能な行財政運営、3つ全てにかかってくるかもしれないが、官民連携についてどのように表現するかということは、事務局で検討させてください。</p>
会長	<p>委員は県の職員の方なので、その視点でのご意見をいただいたかと思いますが、官民連携という言葉は、慎重を要するものだと思っています。というのは、結局、行政が官民連携というと、民間側からは、民間に全て押し付けるのかというような反応があるからです。ですから、書き方や内容はとても慎重に取り扱うことが重要です。先ほど委員が、自治会でコミュニティバスの運行について考えたので、今後は支援してほしいということをおっしゃいましたが、これに行政が乗ったら、立派な官民連携になりますよね。しかも、民間主導です。そういったことを実際にできるような体制や体質に変えていくということも官民連携だと思っていますので、従来型の枠組みだけでなく、箱根に合った官民連携の在り方というものを模索して、示していただきたいと思います。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>町側に質問ですが、資料1の13ページの青い部分、暮らし分野に、「箱根<sup>はこねびと</sup>人の育成」というものがありますが、具体的にどういう人を目指すのか、イメージを教えてください。</p>
企画課長	<p>教育委員会では、子どもに対する教育の中で、箱根に関する教育を通して箱根への愛着形成を図っており、その中で、箱根人という名称を使っています。それを全体的に広げ、箱</p>

根に住まう人が町に誇りと愛着を持って住めるというような、大人も含めた箱根に愛着を持った町民というイメージです。

委員

私は小田原在住で、箱根で働き始めてまだ1年ですが、気づいた点がありお伺いしたいのですが、日常の買物不便や交通渋滞が課題としてよく出てきていると思いますが、通勤していて、駅前やはり渋滞していることを実感しています。実際、あの渋滞はいつぐらいから始まったものなののでしょうか。あと、今まで何かしらの対策を行ったことはあるのでしょうか。

委員

以前は渋滞するのは土日祝くらいでした。コロナ禍の直前くらいから、インバウンドが多くなり、平日でも渋滞するようになりました。紅葉時期は別として、10年くらい前は土日祝だけだったと思います。今は平日でも、時間帯によっては混む時間がありますから、インバウンドの影響かなと思います。

委員

現在、仙石原や強羅には、外部の大手資本や外国資本が入ってきていて、大きな施設が今後ますます増えることが想定されます。そうすると、観光客増に伴い、車も増えると思いますので、交通の部分はもっと深刻になってくるのではないかと思います。町が湯本の渋滞に対して、なぜ渋滞が起きているのかなどという分析をしているのかは分かりませんが、結局は湯本のセブンイレブン前の横断歩道での人の横断で車の流れが止まっていて、そこを過ぎるとスムーズに流れているので、あの場所が渋滞の要因なのではないかと思っています。今どき歩道橋かという意見もあろうかと思いますが、歩道橋ですとか、歩行者天国にしてしまっただけでバイパスを作るとか、今すぐにはできないかとは思いますが、今後の観光客増を考えると、今のうちに渋滞を何とかしないと、箱根に来たのに、一日渋滞で終わってしまったということが出てくる可能性もあり、本当にもったいないと思います。世界の箱根なので、対策をしていく必要があると思いました。

企画観光部長

渋滞対策としては、町単独というよりは、交通事業者や県

と一緒に取り組んできています。こういったことについて、皆さんに伝えられていないという現状がありますが、例えば湯本駅のペDESTリアンデッキの設置は、渋滞対策の一環で行ったことでもあります。昔は地下道として通路がありましたが、その代替の役割を持つ、道路の附帯施設として、ペDESTリアンデッキは整備されたという経緯があります。また、箱根新道が無料化されたことも、渋滞対策の一環ですし、仙石原から南足柄へ抜けるはこね金太郎ライン、この道路についても、渋滞対策に一部寄与するというコンセプトで、県が巨額を投じて整備したものです。こういった取り組みを行っているものの、渋滞がなかなか改善していかないことに加え、コロナ禍を経て、インバウンドがこれだけ増えるという予想もしていませんでしたが、何とか対策をしていかなければならないという認識は持っていますし、現在も、町と県の関係機関で情報交換を定期的に行い、行政ができることについて話し合いの場を設けているところです。ただ、なかなか進まないというのが現状です。究極論として、バイパスを通してはどうかということは、実際に町長が県に対して伝えたこともあります。しかしながら、バイパス建設は現実的ではないので、宮城野から小田原の久野に抜ける足柄幹線林道を一般道化し、通年通行ができるようにしてほしいという要望を、ここ数年繰り返し、知事に対して直接町長が伝えているところです。そちらもなかなか難しいのが現状ですが、粘り強く継続していく必要性は認識しています。

委員がおっしゃるとおり、日本全体でインバウンドの昨年の入込観光客数は4,000万人を超えており、さらに増えることが予想されるという状況では、対処していかないと既に不満が出ている部分にさらに不満が上乘せされてしまうので、何とか少しでも進められるように取り組みを考えていきたいと思えます。

会長

冒頭で、私が観光客年間2,000万人はマックスかどうかお伺いしましたが、仮に今後増えていくとすると、インバウンドがほとんどを占めるという可能性が高いのではないかと思います。それを想定しつつ、交通は、アンケートから分かるように住民にとっても大問題ですし、産業面でもネックになっているので、先ほど部長がおっしゃったように、いろい

ろな取り組みをしているもののうまくいかないという面があり、永遠の課題かもしれませんが、何らかの踏み込んだ対策をぜひ検討していただきたいと思います。

企画課副課長

渋滞が町民にとっての大きな課題であると認識しつつ、第6次総合計画には、渋滞対策で具体的に何をするのかということが書かれていないのは、町民からすればおかしな話だと思っています。先ほど部長が話しましたが、できることが限られている中で、県や国に要望することが、町が今できることというのが現状です。次期総合計画に書かないわけにはいかないと思いますが、その書き方については、担当課を含めて大きな課題であると感じているところです。

会長

そこは実施計画の重要なポイントですね。  
委員、いかがでしょうか。

委員

私が今一番気にかけているのは、若い独身の人で、ホテル勤務で寮に入っている人に対して、出会いの場がもっとあったら良いということです。箱根で出会って結婚して、箱根に住んでいただきたいと思っています。先ほど、委員のお話にもありましたが、若い人が集える、夜に遊ぶような場所がありません。私にも30代の息子がいますので、箱根のロケーションを生かした、昔の「ねるとん紅鯨団」のようなイベントを企画できたらすてきだと思います。お見合いだと引いてしまうので、気軽に集まれる場所で、自然に出会えたらいいと思います。

企画課副課長

箱根のホテルや旅館に働きに来た若者が、そういった楽しみがないという理由で出ていってしまうというのが現状だと思っています。町としても、そこを何とかしたいという思いで、婚活パーティになるとハードルが高いので、去年は(伊藤)委員にも来ていただきましたが、若者が気軽に集えるイベントを、FMヨコハマとの連携事業の中で民間の力を借りつつ、DJに来てもらい、湯本で開催しました。芦ノ湖の近くからも参加してもらい、40人くらいの若者の参加がありましたが、とても喜んでもらえました。若い人がなかなか外に出てきてくれないという現状もありますが、町としても、出

	<p>来ることを頑張っていきたいと思っています。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。そろそろ予定の時間が近づいてきました。本日、資料の数は多いですが、基本的には資料1が中心ということで、改めて何かご質問やご意見はありますでしょうか。</p>
委員	<p>町に質問ですが、財政力指数について、これは1を下回れば交付税をもらえるということですが、人口は関係ありますか。</p>
企画観光部長	<p>人口だけが関係するとは一概には言えません。これは、国が示す標準的なサービスを行うことに対し、どの程度歳入があるのかという計算を行い、その結果、箱根町は1.3という数字になってはいますが、ごみ処理や下水道、消防など、山岳地ゆえ各所に施設がある部分、観光客分を加味したような部分というのは考慮されていません。計算上は標準的なサービスは十分できることになってはいますが、実態は、人口1万1,000人弱の町が2,000万人の観光客を迎え入れて、ごみ処理や消防・救助活動をしなくてはならず、莫大なお金がかかっているという部分が加味されていないので、総務省にも、この制度の見直しについて県を通じて訴えています。全国一律の基準であることから、なかなか聞き入れてもらえないというのが実情です。諦めず、機会がある度に、国会議員を通じて要望するなどの取組みは継続的に行っているところです。</p>
委員	<p>グラフを見ると、年々若干下がっていますが、今後1を下回る可能性はあるのでしょうか。</p>
企画観光部長	<p>今より歳入が10億、20億のレベルで少なくなった場合には、交付団体になるような状況になるかもしれませんが、現実的にはあり得ないかと思います。</p>
会長	<p>人口が減ると、さらに1を下回りづらくなる構造になっています。こういう財政構造の自治体は箱根だけで、国としては、箱根だけ特別扱いにする理由がないので、算定方法の見</p>

直しは恐らく難しいだろうと思います。

委員

同じような自治体だと、軽井沢町くらいですか。

会長

軽井沢町は、箱根ほど観光客数が多くないことに加えて平地ですから、箱根に比べて行政コストがかかりづらい構造で、かなり余裕があります。ちょうど今、庁舎の建替えを検討しているところだと思います。

他にいかがでしょうか。本日、一番確認していただきたかったのは、資料1の特に最後の2ページ、13ページと14ページに書かれているような箱根町の在り方を前提で、基本構想については、こういう作り方をしていきたいということです。要するに「あれもこれも」ではないつくり方にしていきたいと、先ほど委員からご指摘をいただきましたが、それを踏まえつつ、このような方向性で今後進めてよろしいか、ということです。本日もご了解いただけたら、次回の審議会では、これを具体化した基本構想の案が出てくると思います。

ではこの13ページと14ページを中心に、方向性はご了承いただいたということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。次回以降は、早めに資料を皆様にお届けできるように、私も協力していきたいと思います。

それでは、質疑はここまでとさせていただきます。

本日、様々なご質問やご意見をいただきましたので、それらを十分に、今後の計画策定に反映するよう、事務局は検討をお願いします。

議題は以上ですが、事務局から何かありますでしょうか。

企画課副課長

議事録の作成をしますので、案の作成が終わりましたら皆さんにご確認いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

企画課長

長時間にわたり熱心なご議論をいただき、ありがとうございます。会長からお話がありましたように、今後、計画の詳細な策定作業が進んでまいりますので、今後ともお力添えをいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

以上